令和８年度　第１回大阪府スポーツ推進審議会

〇日　　時　　令和8年10月7日（水）10：30～11：50
〇場　　所　　大阪府庁本館5階　議会特別会議室（大）
〇出席状況　　出席委員　14名　欠席委員　1名
（事務局）　保健体育課長、首席指導主事1名、総括主査2名、指導主事2名
文化・スポーツ室スポーツ振興課長、参事1名、総括主査１名
障がい福祉室　自立支援課長、指導主事1名

１　開　　会

- 事務局が開会宣言

２　あいさつ

- 大阪府教育庁教育振興室保健体育課長及び審議会会長よりあいさつ

３　委員の人事について

- 事務局から、委員の紹介（１名の欠席者も含む）
- 事務局から、本日の会議が大阪府スポーツ推進審議会運営要領に規定する定足数を充たしていることを報告

４　大阪府スポーツ推進審議会条例第６条第１項により、会長を議長に選出

５　議　　事

[質疑応答等]　□・・議長　△・・委員　◆・・審議会事務局　☆・・計画部会事務局

（1）第4次大阪府スポーツ推進計画の策定について（骨子案、答申たたき台）「資料1」

◆事務局から説明（スポーツ振興課）

□ご意見、ご質問等いただきたい。

△広範囲にわたってスポーツの推進についてよくまとめられていると思う。答申案たたき台（P21）について、市議会でも子どものスポーツの機会を創出することはよく議題にあがる。オリンピアン・パラリンピアン等の派遣は市でも評価されており、積極的に活用していくべきではないかとご意見をいただいているところ。市単位では企画できるものではなく、継続していくということで記載いただいてありがたい。年間の実施回数は？

◆令和７年度は１７校へ派遣、令和８年度は２５校への派遣を予定している。

△引き続き、答申案たたき台（P21）の部活動の地域展開について、各市町村にとっては大きな課題となっている。子どもたちのスポーツ活動を部活動として教員が支えてきたものを、市町村が地域で支えていかなければならない。子どもたちのスポーツ活動について大きな転換期であり、特に子ども期のスポーツ活動、スポーツに触れる機会として、大きな意味を持つことになってくるため、具体的な取組例について記述内容をもう少し深めていただきたい。

◆今後検討していきたい。

△障がい者スポーツについて、障がいによるが、健常者と違い一人でスポーツ施設に行けない等、様々な制約を受ける方がたくさんいらっしゃる。支える方、指導者や同伴者を重要視することが大切であり、国の動向では指導者、審判員等の支える方の表彰を検討している。大阪府でも支える方の育成等について検討していただきたい。

△学校部活動において、その種目の専門でない指導者は負担感がある。地域の指導者については高齢者が多い。子どもたちは若い先生に指導してほしいという想いがあるが、実際には子どもの想いとは乖離している。将来的にこのような課題が増加するのではないかと考える。

△オリンピアン・パラリンピアン等の派遣についてはメディア等でよくみられる。部活動についても、先生方の勤務時間等の労働に関することに付随して、指導者として経験者が派遣されることがよくある。部活動指導員等の外部の指導者はどのような種目の方が多いのか？

◆正確な数字は今すぐにはお答えできないが、フィギュアスケートの部活動指導員を配置されている学校もあるように、学校のニーズに合わせ指導いただいている。

△今後の取組として、例えば冬のスポーツはフィギュアだけではなく、スピードスケートやスキー等もある。スポーツ全体に門戸を広げることにより競技人口は増えてくる。幼少期にスポーツをしており、中学高校の時期に勉強が忙しくやめてしまった子でも、大学から再び始める子もいるので、様々なスポーツに視野を広げていただけると嬉しい。

△計画の実現に向けて具体的にどうしていくかが一番大切と考える。この計画は、一般府民にとって身近なものではないと思う。計画ができたときに、具体的にどのように府民に向けて知らせていくのか、情報発信が重要であるため、完成した計画の情報発信方法についても考えていただきたい。また、限られた財源をどのように使うのかを考えることも大切。例えば市町村や企業、府内他部署と連携して実施していくことも大切であると考える。また、支える方の育成等の記述が少ないと感じる。

△第３次計画では課題抽出まできっちりと記載されているが、その評価が本計画には記載されていない。国の第４期スポーツ基本計画との整合性が確認できない。新たな事項を含め網羅的に様々な項目を押さえる必要がある。大阪らしさを計画に落とし込んでターゲットをしぼっていくべきであり、ウェルビーングについて第１の柱については記載されているが、第２の柱は府の担当課所管の施策であり、大阪府全体としての施策が書かれていない。

アマチュアスポーツの競技力向上に関する記載もない。指導者等の支える人たちをどうするかの記載がない。

「あつまる」「つながる」を重視しているとあるが、インバウンドを意識した記載はあるが、大阪の街づくりの視点が欠けている。アスリートのセカンドキャリア支援について大阪の特色として打ち出してみてはいかがか。

地域全体でのスポーツコンプレックスが国の計画では記載されているが、本計画では記載されていない。
アリーナ（施設）について、大阪府も投資の観点が必要ではないか。
中学校の部活動についても地域がどのように支えていくかをもう少し丁寧に記載していただきたい。
数値目標についても設定が限定的、抽象的である。これらの項目以外に、競技力向上に関する目標も必要では。オリンピックではメダル数が国力を表す、アジア大会では経済力の相関関係があると言われている。
競技力向上に関する予算については大阪府の補助金が極端に少ない。（都道府県スポーツ協会連合会の資料配付）
国民スポーツ大会については改革を行いながら継続実施していくとなっている。疑義はあるが一定の役割が存在すると考える。
大阪府の予算が無いのであれば、また、副首都を府がめざすのであれば国の施設（ナショナルトレーニングセンター等）を大阪に誘致するなども街づくりの観点からは必要ではないかと考える。
保健体育課とスポーツ振興課が同じような事業をしているので整理が必要と考える。スポーツ主管課の一元化についてもご考慮いただきたい。
子どもの競技に関する適正化を図る事業をしてみては。年代別に整理されているが、どのようにシームレスにしていくのか。
NOスポハラ、スポーツ・インテグリティ、熱中症対策、スポーツ施設のデータについても記載していただきたい。特に、学校の体育施設について、防災の観点からも有益であると考えるので、データを整えていただきたい。
用語の定義付けがあるが、用語集として最後に記載していただきたい。
◆部会で検討していく。

△第５章で「財源の確保」と記載していただいていて、実際に確保するのは大変であると理解している。関係団体等が無償で取り組んでいただいている面もあるが、最低限の財源は必要であると思うので、財源の確保に努めていただきたい。
大阪の特徴としてプロチームが多いことや施設が多い等強みがある。先を見据えて様々なところから、人が来ていただけるように考える必要がある。
ワールドマスターズゲームでも大阪府内で行われる競技がある。その地域でその競技が継続して行われているとよい。
国スポの冬季種目は東北地方等比較的同じ地域で行われているが、その辺りを誘致してみては。
大きな負担になるものは持てないと考えるが、万博会場跡地に大きな施設ができるのであれば、府が負担のないように、参加料を徴収することや企業とのタイアップをする等して大規模イベント、スケートの大会やXゲームの誘致をしてみては。
◆ワールドマスターズゲームについて、大阪府内では泉南市でオープンウォーター、岸和田市で自転車BMX、東大阪市でラグビー、堺市でサッカー・フットサル、大阪市で閉会式を実施予定である。オープンウォーターでは600から1000名定員に拡大。ラグビーは女性の参加希望がなかったため、人気の年代へ枠を振りかえるなどの対応を行い、BMXは体験会を実施して関心をもってもらうなどの取組みを行っている。引き続き、大会組織委員会や関西広域連合等とも連携しながら進めていく。計画策定部会でもワー

ルドマスターズゲームのレガシーの継承が必要との意見をいただいており、計画に落とし込むことも含め、先を見据え、取り組んでいく。

△骨子で 20 歳以上の週一回以上のスポーツ実施率、参画者が全国と同水準であるとあったが、大阪府が参考にできる先進的な都道府県があるのではないかと考える。
ある地域ではＪリーグの試合がある日には市民がそのチームのユニフォームを着る等してスタジアムに向かう姿が見られる。地域によって「する、みる、ささえる」の格差があると考える。この地域では「みる」が盛んである、この地域では「ささえる」が盛んである等があると思う。大阪府全体を盛り上げるためにその地域の強みを共有していただけたらと思う。
スポーツ施設を利用しようとするがなかなか予約ができない。スポーツをしたいと思ってもできる環境が整っているのかと考えると、する人が大勢いて、公共施設が使用できない人がいると考える。部活動の地域展開で学校の施設が使用しやすくなり地域に開放する等の調整を行うこと等ができたら、大阪府として「する、みる、ささえる」をバランスよく実行できるのではないかと考える。
計画Ｐ８（この１年間のスポーツ観戦割合）「ＴＶ・インターネットで見なかった」全体「68．2」を「38．2」に修正が必要。

△学校教育に係ることが記載されていて、部活動の地域展開等についても記載されている。研修についても記載があり、研修はスキルばかりであったが、メンタリティや集団性も重視するような研修も増えてきている。近年の好事例、メンタリティ、保護者関係に関する研修を進めると、好事例に繋がると考える。可能であれば今回のような会議では意見等を記載できるような仕組みにしてほしい。

△スポーツ教室に協力しているが、参加する子どもや保護者も大変喜んでくれている。今後もこのようなプロジェクトが広がっていければ良いと思う。１歳の子どもがいるが、環境的に、スポーツすることが難しい。東京では早朝から無料で開放されているスポーツ施設がある。大阪でもそのような施設が増えたらと思う。

□今回いただいたご意見等をふまえて今後開催予定の第３回大阪府スポーツ推進計画策定部会を開催し、その結果を第２回スポーツ推進審議会でお示しする。

（2）報告事項
第４次大阪府スポーツ推進計画策定に向けたスケジュールについて「資料２」
特になし

６　閉会

- 事務局が閉会宣言を行う